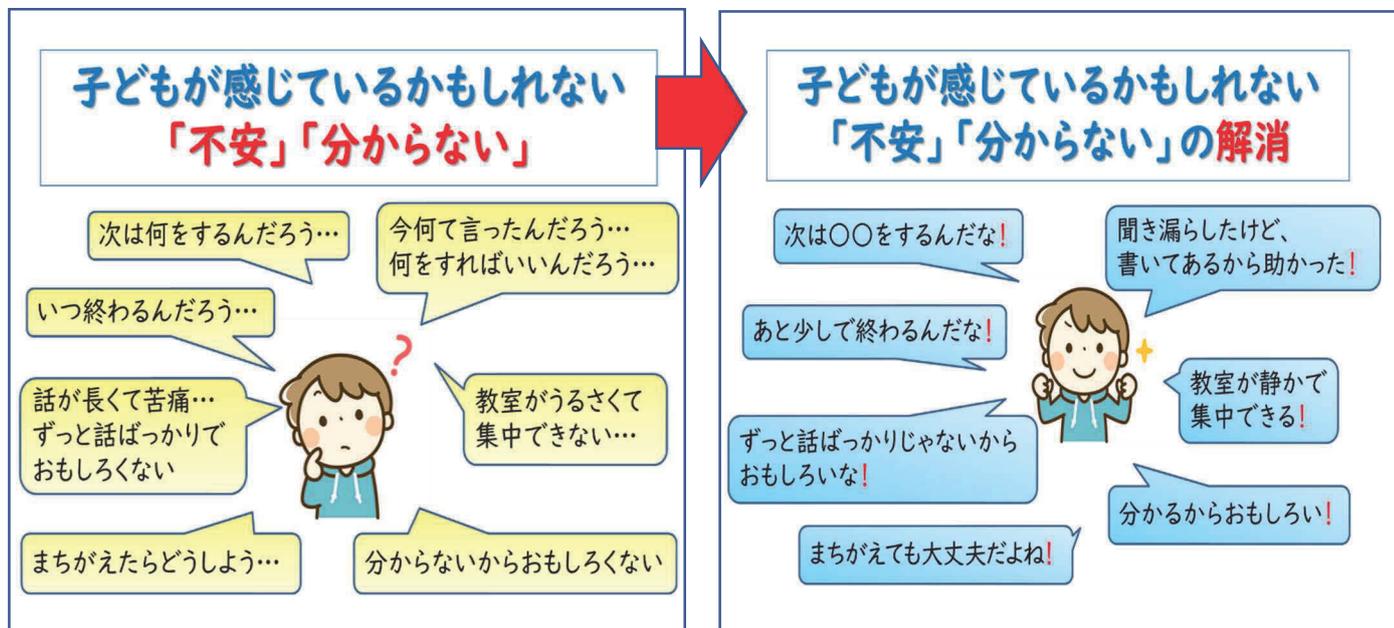


6 「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例

☆ どんな指導もまずは子どもの「実態把握」からスタートです。①～④の順番で、丁寧に授業づくりを進めていくことで、子どもの感じている「不安」「わからない」の解消に努めましょう。



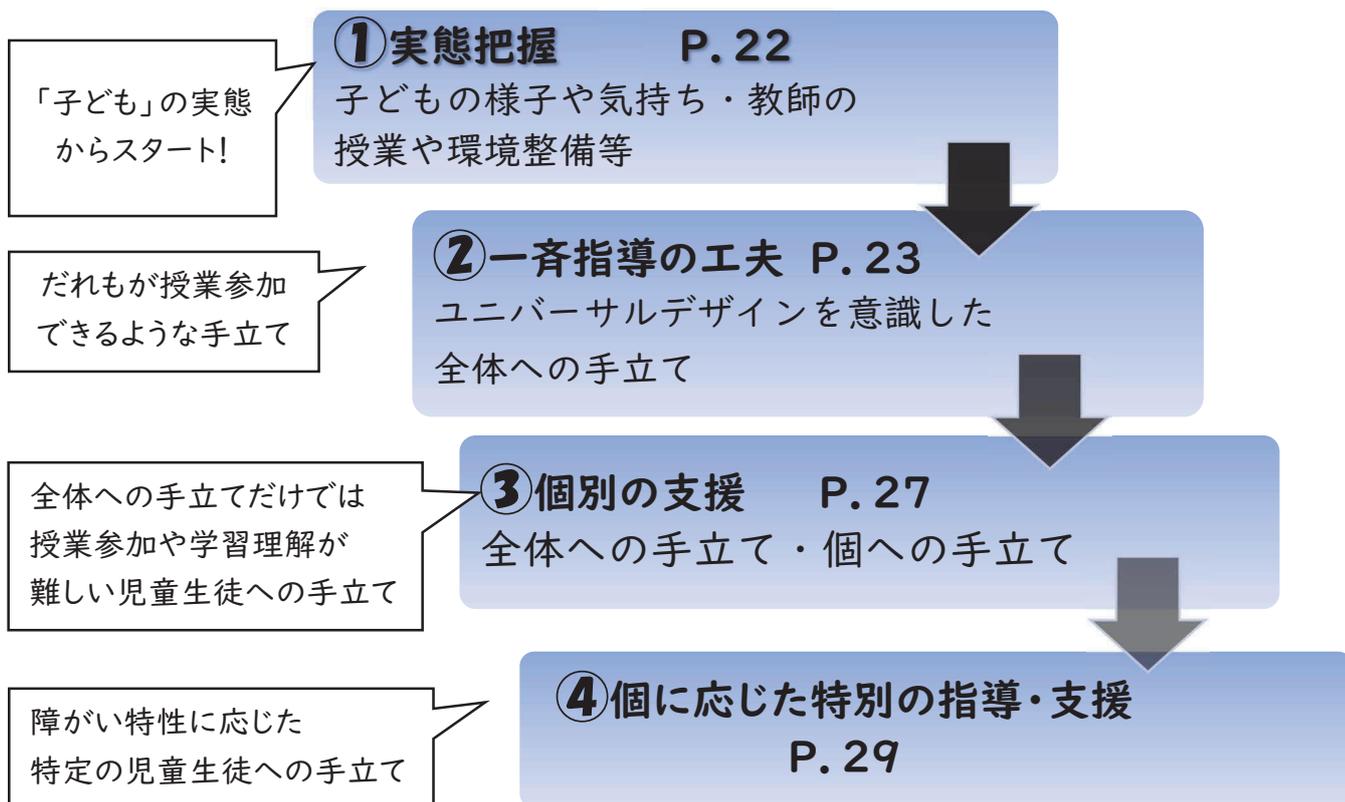
☆ 子どもの実態を把握し、子どもの状態に合わせてよりよい授業づくりをしていきましょう。「集団」は「個」の集合体です。「個」のための手立ては、「集団」にとっての手立てにもつながります。

自己肯定感!

自信!

わかる!

学力向上!



① 実態把握の方法

子どもへの指導・支援を行うために実態を正しく把握することは不可欠です。実態把握の方法はいろいろありますが、子どもが自分自身をどう考え、どんなことに困っていると感じているのかという視点からの実態把握も大切です。

そこで、ここでは、実態把握の一例として

「子どもが自分自身のことについて答えるアンケート」(学校生活面・学習面)【例1・2】

「担任(教師)が子どもを観察する実態調査」【例3】

「教師が自分自身の授業について評価するチェックシート」【例4】

など様々な視点からみた実態把握及びチェックシートを紹介します。

【例1 (子ども) 自分自身について】※1

あなたの得意なことや苦手なことはなんですか?
次の質問を読んで、あてはまる番号を書いてください。

()年()組 名前()

10. いやなことがあっても、あばれたり、大きな声を出さずに、自分の気持ちを相手に伝えること。
①とても得意 ②まあまあ得意 ③ちょっと苦手 ④とても苦手

11. 自分の言いたいことを相手にわかるように話すこと。
①とても得意 ②まあまあ得意 ③ちょっと苦手 ④とても苦手

12. みんなと一緒にあそぶこと。

学校生活の中で子ども自身が感じていること

【例2 (子ども) 学習について】※2

学習アンケート (3年生以上)
()年()組 名前()

授業中に、次のことがありますか?あてはまるところに○をつけましょう。

1. 授業中、ことばだけで質問されるとわかりにくい。	はい	ときどき	いいえ
2. 授業中、黒板に絵や説明があると、わかりやすい。	はい	ときどき	いいえ
3. 授業中、先生が何を話したのかわからない。	はい	ときどき	いいえ

授業中、学習に関して子ども自身が感じていること

※ 1・2 「参考文献 H30 文部科学省委託 大阪府富田林市立富田林小学校研究紀要」

【例3 (教師) 教師から見た子ども】

特別支援教育に関する実態調査
()年()組 担任()

① 該当しそうな項目に○、特に顕著な場合は◎を記入
② /のところは、数値を記入
③ 授業日数は5月末現在で記入(本年度は、1年生 34日、2年生以上38日)
※ 日常生活の中で、担任の先生が気づかれた範囲内で結構です。
※ 該当がない場合は、「該当者なし」と記入して提出してください。

(令和)年)月)日 記入

項目	児童名				
視力	1 矯正視力が0.3以下(矯正視力左/右を記入)		/	/	/
視力	2 乱視・斜視・眼疾・その他				
聴力	3 名前を呼ばれても、気づかないことがある				
聴力	4 補聴器を使用している				
言語	5 「カ・サ・タ・ラ」行他を正しく発音できない				
言語	6 言葉が詰まったり、繰り返したりする。(吃音)				
言語	7 視覚的に気づけず、わかっていて聞き取れない				

先生から見た学級の実態

【例4 (教師) 自分の授業について】

「わかる!」「できる!」どの子どもも授業に参加しやすくするためのチェックポイント

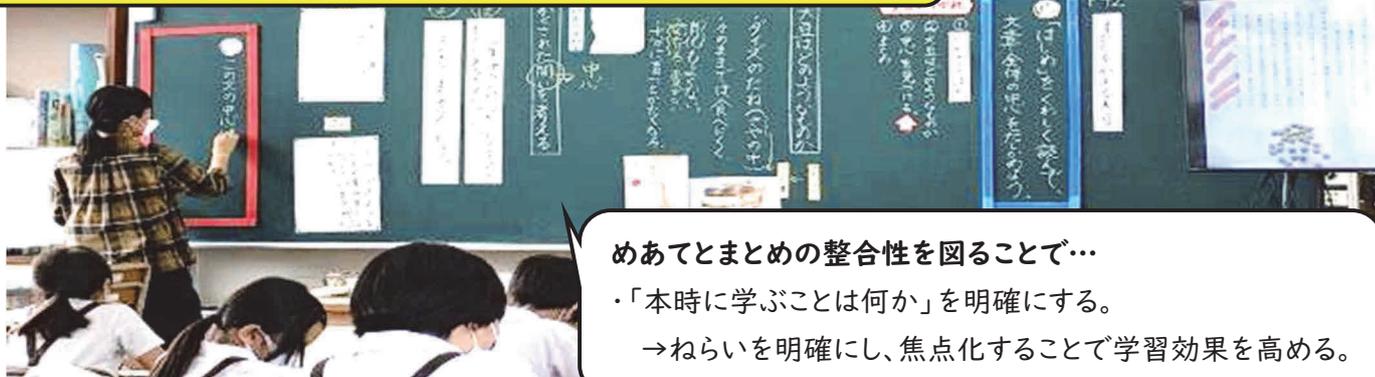
項目	具体的な実践内容	/	/	/
1. 視覚的側面量の調整	○黒板・黒板まわり すっきりしている			
	○先生の机上・棚 すっきりしている			
	○教室内の棚・床 すっきりしている			
	○先生の表情はおだやか			
2. 聴覚的側面量の調整	○先生の声量は使い分けられている			
	○人権感覚のある先生の言葉遣い			
	○授業中の静寂が保たれている			
	○ふたれい(雰囲気)が保たれている			

授業のチェックポイント

※ 資料は巻末のQRコードからDLできます。

② 一斉指導の工夫（ユニバーサルデザインを意識した全体への手立て）

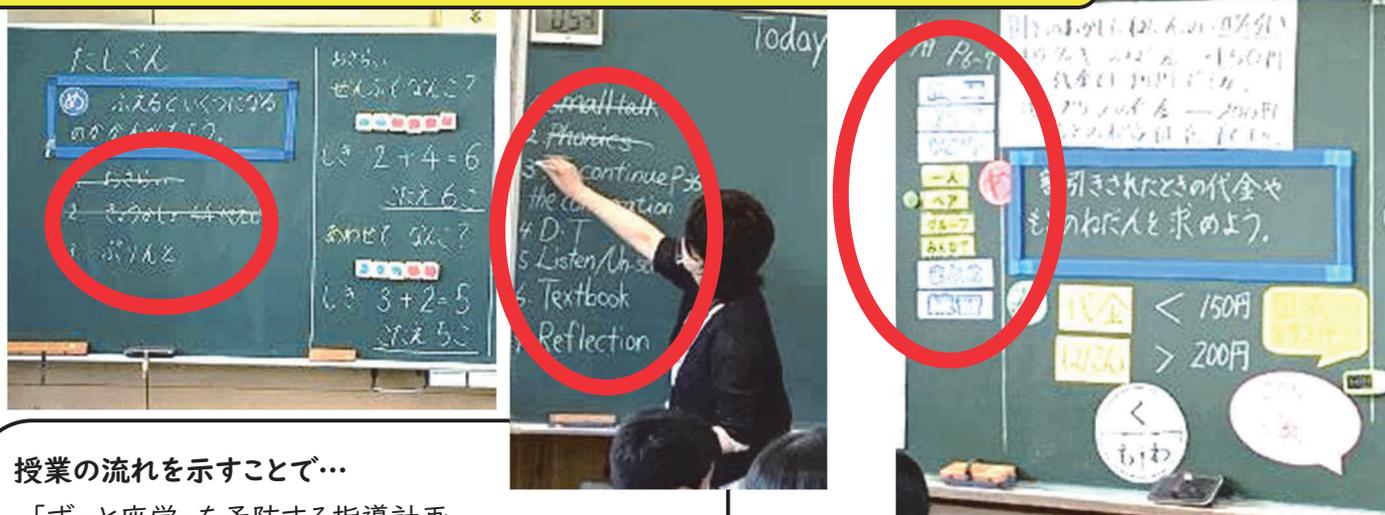
整合性のある「めあて」「まとめ」で焦点化された授業を！



めあてとまとめの整合性を図ることで…

- ・「本時に学ぶことは何か」を明確にする。
- ねらいを明確にし、焦点化することで学習効果を高める。

45（50）分の授業の流れを提示することで見通しのもてる授業に！



授業の流れを示すことで…

- ・「ずっと座学」を予防する指導計画
- ・「聞くだけの時間をどう減らすか？」という意識の向上
- ・「今何をやっているのか」の明確化
 - 目で見て自分で確認できるシステム
 - 授業中の迷子が減らせる

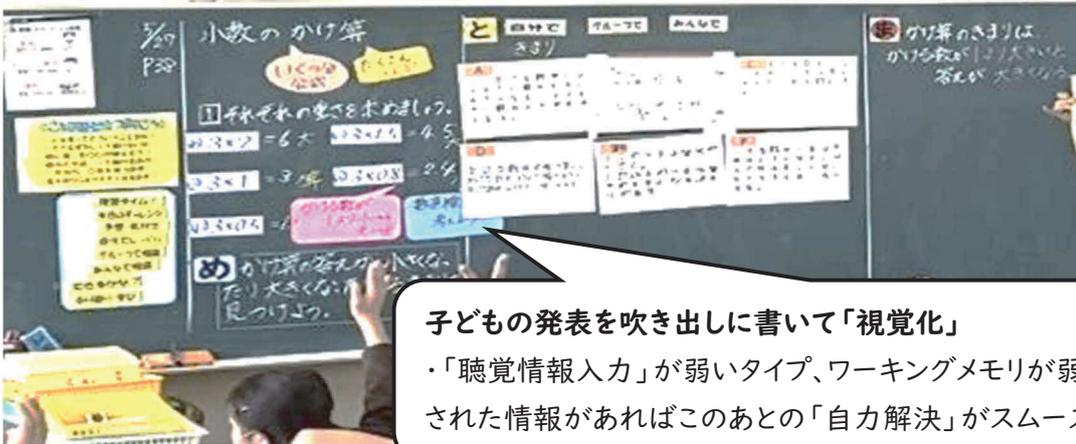
「子どもに伝わる・分かる」授業を！

話し方を工夫することで…

- ・話すときは「ぐみこし」を大人が意識
- ・「ちゃんと」「しっかり」「きちんと」ってどういうこと？
- ・子どもが活動できていない→伝わっていないかも？

ぐ 具体的に
み 短く
こ 肯定的に
し 視覚的に

「目から」「耳から」どの子どもにも確実に情報を伝えて参加度の高い授業に!



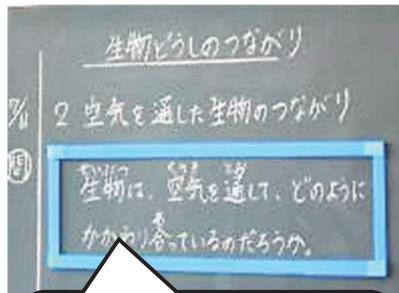
子どもの発表を吹き出しに書いて「視覚化」

・「聴覚情報入力」が弱いタイプ、ワーキングメモリが弱いタイプには、視覚化された情報があればこのあとの「自力解決」がスムーズになる

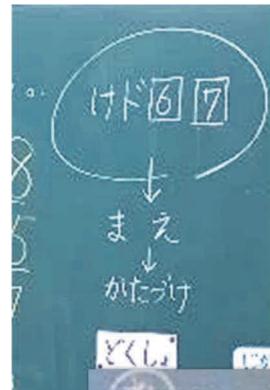


見えない時間の「視覚化」

※(1)



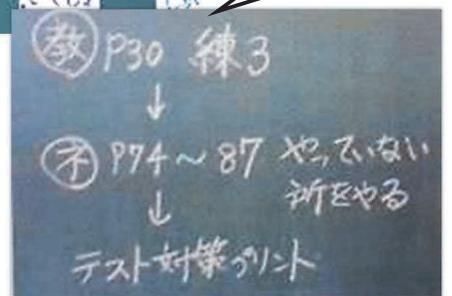
どの子ども、読んで情報が得られる「ルビ振り」



口頭で伝えたことをさっと文字で「視覚化」しておくことで助かる子どもがいる



※(1)出典：東京書籍 通常学級での特別支援教育スタンダード



教室以外の場所では聴覚情報のみになりがち。工夫次第でどの子どもにも指導したい内容が伝えられる。

45 (50) 分間を子どもの脳が活性化する主体的な授業に!

☆10~15分に一度は、動作・作業・活動を設定した指導計画を立てる

☆体や感覚を使った授業で理解を深める・記憶させる

【例】・教え合い ・ペア・グループ活動 ・ギャラリーウォーク

・〇人に説明しよう ・動作化やジェスチャー ・リズムや歌で記憶

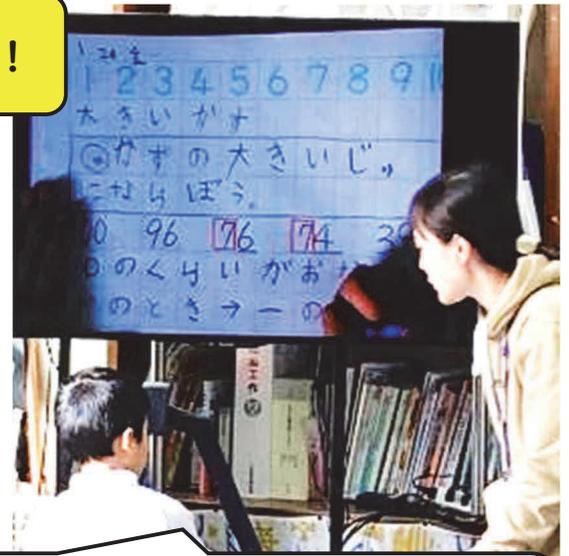


ICT 機器の効果的な活用で分かりやすい授業に!



視覚的で具体的なので「わかりやすい」

- ・「同じように書きましょう」「ここに書きましょう」
- ・ノート指導にも効果的



音声+視覚的な発表で「見える化」

- ・聞き手にわかりやすい
- ・資料提示等の話し手の「プレゼンカ」向上

指導技術のバリエーションで様々な認知スタイルの子ども達にも対応できる授業を!

- ☆具体的なフレーズにすると覚えられるタイプ
- ☆動作化や歌にすると覚えられるタイプ
- ☆書き込みをすることで答えにたどり着けるタイプ
- ☆エピソード記憶 ☆例え話で理解できるタイプ

【例】

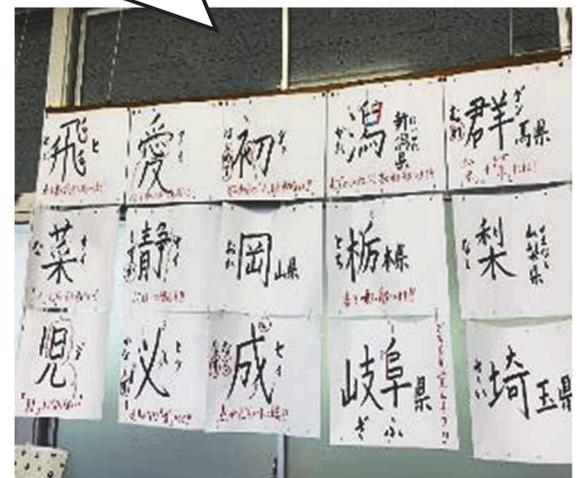
「どうすれば子どもの記憶に残るか？」
子どもの目線に立った掲示物

【例】漢字の覚え方

- ① いっぱい書くの術
 - ・覚えたい漢字や例文をノートに 30 回書く。
 - ・覚える回数は人それぞれ
- ② 漢字たし算の術
 - ・言+式=試のようにパーツの組み合わせて覚える
- ③ 話をつくるの術
 - ・「言った 式の計算 試験に出るよ」

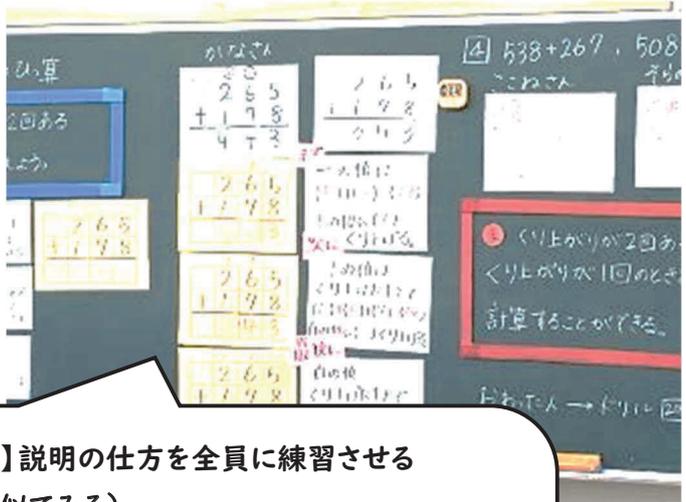
【例】英単語の覚え方

- ① 絵を見て覚えるの術
- ② 繰り返し書くの術
- ③ 例文で覚えるの術
- ④ 語源で連想の術
 - 「unite」の語源は「一体」「合体」→接頭辞は「uni」
 - 「uni」で始まる単語を連想
 - 「uniform」「universe」「unicorn」～似た意味で記憶



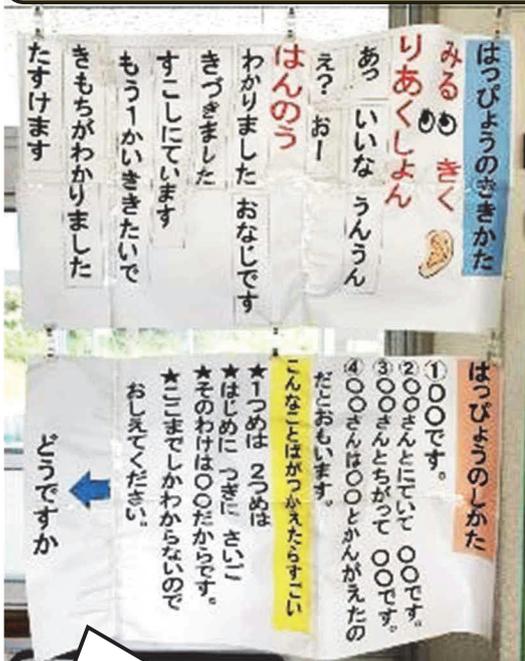
「漢字も英単語も、何回も読んで何回も書く!」
という方法が合わないタイプの子どももいる

子どもの学習技能を鍛える授業を!



【例】説明の仕方を全員に練習させる (真似てみる)

- ・「見てまねるだけ」→参加度 UP
- (順序を意識する)
- ・「はじめに」「次に」「最後に」のカードを提示
(具体例を示す)
- ・「説明する力」を各教科で鍛える。

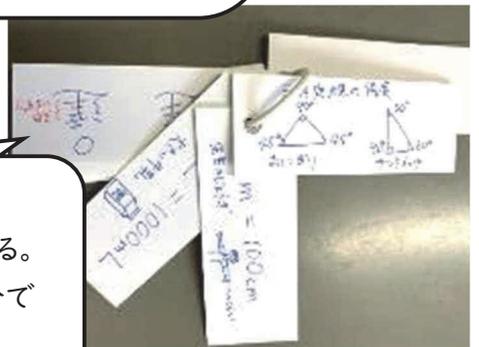


【例】発表話型いろいろ

- ・反応・話し方のレポーターをいろいろ教える
- ・学級づくり・仲間づくりにも有効!
- ・「教師がしゃべりすぎず、子どもにしゃべらせる」ために教師は「つなぐ」
- ・慣れたら話型から離れることも・・・

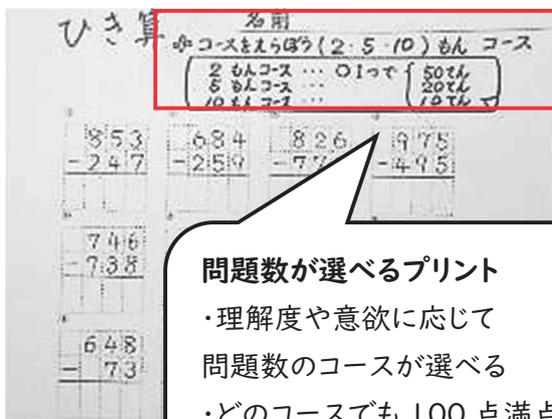
【例】記憶の補助に単語カード

- ・友達のカードを参考に作ってみる。
- ・「覚えなくては!」と思ったら自分で書き込む自分だけの勉強法!



個別指導が可能な習熟の時間の工夫で子どもの「わかる」「できる」を確実にする授業を!

※(2)



問題数が選べるプリント

- ・理解度や意欲に応じて問題数のコースが選べる
- ・どのコースでも100点満点
- ・時間差に対応できる



おかわりプリント

- ・教室のあちこちに1問ずつのプリント
- ・廊下で自分で丸付け
- ・離席できる
- ・個別指導の時間確保

※(2)出典：東京書籍 通常学級での特別支援教育スタンダード

③ 一斉指導の中での個別支援

補助教材の工夫!効果的で操作しやすい教材・教具で理解を深める。

困難さに応じたICT機器の活用(例)

- タブレット端末に、自分の意見を書き込んだものが、テレビ画面(ディスプレイ)に映り、学級全体で意見を共有することができる。
- 発表が苦手な子どもにも、自分の考えが表現しやすくなる。
- デジタル教科書の有効活用やタブレット端末で板書を撮影したものを手元に置いてノートに写すことができる。



自分の意見を
タブレット端末
に入力



拡大模型や動画で技能をわかりやすく伝える(例)

- スナップボタン付けの拡大模型でやり方を分かりやすく説明する。
- 注意して取り組む点を明確にした掲示物により、注意点を意識して取り組むことができ、技能を身に付けることにつながる。
- 教科書のQRコードを読み込み「ボタン付け等の動画」を視聴することができる。
→その他、様々な動画を視聴することができ、個別の支援を行う際にも有効である。



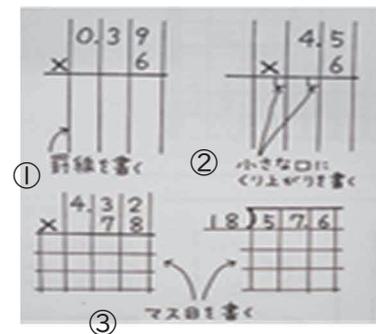
動画視聴でボタンの
付け方を確認



罫線・マス目付きプリント(例)

- 小さなミスを防ぐための工夫を行う。
(例) ① 罫線(補助的な)を入れる。
② 小さな「□」の中に繰り上がりの数字を書く。
③ マス目を付ける。

※(3)



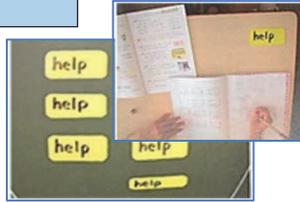
※(3)出典:東京書籍 通常学級での特別支援教育スタンダード

教育的ニーズに合わせた教材を準備して子どもの苦手に配慮を!

コミュニケーションが苦手な子どもへの配慮(例)

- 「ヘルプカード」の活用により、困っていることを訴えやすくする。
- 意思表示の代替手段として「保健室利用カード」、「トイレ行っていいですか?カード」を活用することもストレスを減少させることにつながる。
- SOSが出しやすい学級全体の雰囲気づくりに努めることも必要である。

ヘルプカード



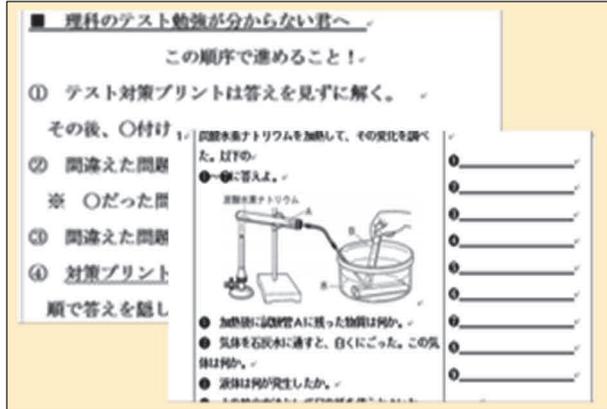
意思表示カード



出典：東京書籍 通常学級での特別支援教育スタンダード

テスト勉強が苦手な子どもへの配慮(例)

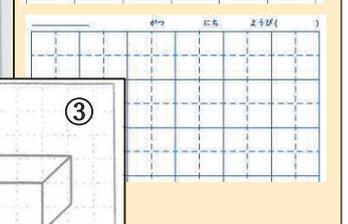
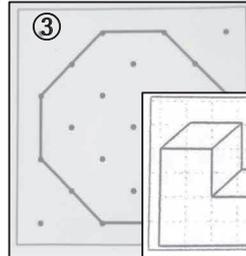
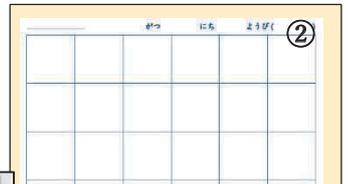
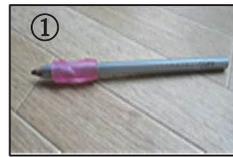
- テスト対策プリントを準備し、焦点化する。
- 「学習の手順」「学習方法」を明記して取り組む点を明確にしたプリントを全員に配布することで、テスト勉強への意欲を高めることができる。



具体的な手立てを準備し、個に対する支援を!

書くことが苦手な子どもへの配慮(例)

- 握りやすいグリップの活用(筆圧に合わせた書きやすい鉛筆や指がしっかりと固定できるグリップを活用することで苦手意識を軽減することにつながる。) ①
- マス目の大きいノートや罫線・リーダー線のある用紙への変更(学年指定のノートにこだわらず実態に応じた用紙を用意することで、書くことへの抵抗を減少させることにつながる。) ②
- 点結びや技術家庭のキャビネット図等を正確に写す練習をする。(視覚認知の基礎力を身につけることにもつながる。) ③
- 穴埋め式のワークシートの活用等により、書く量を減らす。



読むことが苦手な子どもへの配慮(例)

- 「補助シート」を活用し、読む行だけが見えるようにすることで、視線の移動がスムーズになり、読みやすくなる。④
- テストや配付物の拡大提示や(本人が読みやすい大きさ)、ルビ付き教材を利用する。
- 文節と文節の区切れは「スラッシュで区切る」、読み間違いやすい単語は「丸で囲む」等の印をつけさせる。
- パソコンの読み上げソフトやデジタル教科書のフリガナ付きソフトを活用する。⑤



④ 個に応じた特別の指導・配慮

「通級による指導」や「特別支援学級」における指導や配慮も参考に!

「通級による指導」や「特別支援学級」における授業づくり(例)

学校によっては「通級による指導」や「特別支援学級」を設置し、個別の指導や配慮を行っています。

「通級による指導」においては、障がいにより、読み書きに時間がかかったり、友達とのコミュニケーションが苦手だったりするなど、学習面や生活面における困難さの改善・克服のため、一人一人の状況に応じた指導を行っています。

「特別支援学級」においては、障がいによる様々な実態の子どもたちが在籍しています。複数名、複数学年の在籍の学級も多く、異学年複式も複雑な授業の形態をとらなければならない場合もあります。

一斉授業や複式授業、そして、個別指導など行う上で、子どもの実態に応じた教材・教具の工夫、自立活動の目標や指導内容を取り入れた授業づくりを行っていく必要があります。

また、「通級による指導」での学びを通常の学級で生かしたり、「特別支援学級」において学んだことを交流学級での学びに生かしたりすることは重要です。

ここでは、「通級による指導」や「特別支援学級」における指導や配慮の例を示しています。

(1) 学習形態の工夫(例)

授業の流れの視覚化

棚用カーテン



通級による指導の例

視機能訓練
(ビジョントレーニング)

パーテーション
利用



視覚的に理解を進める映像を使った教材

課題や
スケジュール
の視覚化

特別支援学級の例

特別支援学級の例

座席の向きの工夫

見通しをもたせるタイムタイマー ※1

課題ボックス ※2

終了ボックス ※2

(2) 支援の実際 (例)

特別支援学級及び通級による指導の例



※1 「タイムタイマー」
残り時間を量で示すことで見通しをもたせることができる。
「あと〇分。
赤い部分がなくなったら終わりだよー。」

○ 次の活動へ移る目安を示す際にも活用



「場の構造化」

教室の空間を目的のある空間として仕切ると子どもたちも何をする場なのかが視覚的に分かりやすく落ち着く。

- ・ 床に座ることができるスペース
- ・ 一人でクールダウンできるスペース



※2 「課題ボックスと終了ボックス」

- ・ 一人で課題を進めるのに便利。
 - ・ 一番下には本人の好きな課題をいれておくのも効果的。
- 意図的に離席の機会を設定することによる効果も期待できる。

